

平成29年度 第2回 学校協議会 【議事録】

平成29年11月14日

10:00～11:30

[場 所]: 茨木支援学校 校長室

[出席者]: 校長 准校長 教頭(2名) 事務長 首席(4名) 部主事(3名) 協議会委員(6名)

はじめに

校長・准校長あいさつ

① 会長挨拶

年に3回の学校協議会は、学校を支える協議会として意見を出すには十分な回数である。思っていることをそのままご意見として出していただくことが学校のためになると思う。

② 報告及び協議 (※●は協議会委員からの意見、提言等 Qは質問 Aは学校の回答)

[協議会意見書箱について]

今回は意見書箱への投書はなし。

[第1回授業アンケートについて]

[教頭より]

- ・回収数や回収率は全体的に見ると上がっており、多くのご意見を保護者からいただいた。いただいたご意見は、学部ごとにまとめて集約している。
- ・ご意見をいただいた授業については、校長・准校長を中心に教員に直接アドバイスをするなど改善を進めている。
- ・今後の改善すべき点は、3つ挙げ、職員会議にて教員で共有している。
 - ① 否定的な表現・厳しい言葉での指導については、改善を進め、お互い言いあえる教員の関係作りを進めていく。
 - ② 教室の環境整備については、学習の妨げになるものを教室から取り除くなど環境づくりを進めている。
 - ③ 視覚支援について、児童生徒の実態に合わせて工夫を進めていく。
- ・2学期については、12月に参観日を設け、アンケートを実施する予定。

Q. 授業アンケートは例年実施されているが、学校側から見て、アンケート結果に大きな変化はあるか。

A. 高等部の新生の保護者については非常に多く授業を見に来ていただいた。そして学校の様子や他校との比較など様々なご意見をいただいた。小中については授業参観された保護者数が少なかったため、プール参観等の機会を利用してアンケートを配り、ご協力いただいた。

Q. ことばかけについての意見があるが、生徒数が増え、障がいも多様化している中で、そういった意見が出るのは学校のどのような背景が要因か。

A. 昨年度は、生徒の呼び名について迅速に改善を行った。

指示が通り難い生徒や指示は理解できるが教室に入れない生徒に対する指導において、厳しい指導やことばがみられた。

指示が通り難い生徒に対しても、丁寧な指導・丁寧な説明をするように確認をしている。

[准校長]

- ・生徒の実態も多様化する中、子どもへの指導・支援において管理職が授業を見たり、学校全体で研修を行ったりして改善を図っている。

[校長]

- ・大阪府においては、授業評価の条例ができた。
- ・授業評価については保護者に行ってもらおうこととなっている。
- ・支援学校においてトンプソン検定での評価は正確でない場合も出てくる。そういった場合も管理職が直接授業を見て指導を進めている。

●支援学校も一般の学校に合わせるといったこともあるが、支援学校の特殊性から合わないようなこともある。そういったことは校長会でも発信して行ってほしい。また、学校全体や保護者とも共有していくことが大切であると思う。

●府立支援学校PTA協議会での意見交換の中で、学校によって運営の仕方に差があるといった話が出た。

●保護者は、子どもが生まれた時から障がいについて学んでいて、知識豊富である。経験年数の少ない教員も増えてきている中で、学校で行われている研修について広報し、保護者と一緒に学んでいこうという姿勢を大切にしてほしい。

●医療的ケアの事業など、詳しい説明がないと保護者には伝わり難い。子どもたちにとってどういうメリットがあるのかなど、分かりやすい説明をプラスしてほしい。

[平成 29 年度 学校経営計画進捗状況について]

[学校長より] (別紙 学校経営計画)

・進捗については5点

① 子どもファーストの項目・・・新しいスポーツを積極的に導入している。
(ボッチャ甲子園に参加し、教員の指導者研修にも参加予定。)

② キャリア教育の項目・・・読書活動の一環として、図書室に新聞を設置した。

③ センターの機能の項目・・・地域に根ざした学校をめざしている。

・・・PTAと連携して防災の取り組みを進めている

④ 10月にマレーシアの支援学校が来校。1月には韓国の支援学校が来校予定。

⑤ チームとしての学校づくり・・・実践の報告を執筆中。

・今後の課題として2点

◎個別の教育支援計画の活用について

◎教職員の防災意識の向上について

[准校長]

- ・ヒヤリハット報告活用の項目・・・随時報告し、活用を進めている。
 - ・医療的ケアの学校体制を整えるための国事業を進めている。
 - ・・・人工呼吸器の児童生徒の保護者別室待機を進めているところ。
 - ・・・全国の研修会で本校の実践を発表する予定。
 - ・個別の教育支援計画について
 - ・・・学校教育自己診断アンケートの肯定率が伸びていない。活用が不十分な部分があると思われる今後、教務部と進路部を中心に教育支援計画についての改善を進めている。保護者のご意見もお聞きしながら進めていきたい。
 - ・外部講師による職業教育について
 - ・・・清掃の専門家による指導を実施した。
 - ・・・大阪マラソンのボランティアとしての参加を予定している。
 - ・・・万博公園で開催された「こさえたんマルシェ」に参加した。
 - ・・・喫茶サービスについても継続して学習を進めている。
 - ・就労については、今年は8名が希望している。現在数名が内定をいただいている。
- 支援計画について、進路においては情報を伝えるためには必要なものだと思うが、進路先の立場として、どういう情報が必要なのか。
- 進路先に学校側から子どもについての情報はほとんど伝わってこない場合がある。子どもの情報を共有できるよう、高等部卒業後にも支援計画を活用して情報を伝えてほしい。
- 進路指導を担当される先生によって進路先へのアプローチが大きく違っている。学校を通さず、保護者が直接進路先に問い合わせる場合もある。茨木支援学校の進路指導は分かりやすく、子どもの情報も入ってくるので助かっている。
- 進路指導は、学校にとっては集大成で大変重大な課題である。学校としては進路指導に懸命に取り組んでおられると思うが、改めて進路について学校全体で確認が必要ではないか。
- 「こさえたんマルシェ」をみても、喫茶サービスの対応は、随分と慣れてきて良くなっていると感じた。今後も協力していくので継続してがんばってほしい。
- 就労率も大事だが、定着率も意識してほしい。長く働くことができる事もめざしてほしい。

[学校教育自己診断について]

[首席より]

- ・集計・分析については第3回学校協議会にて報告を予定している。
- ・児童生徒対象のアンケートについては、高等部の生徒に実施。
- ・「いじめ」についての追加項目がある。

- ・今後の流れ、アンケート項目の説明

[校長]

- ・アンケート結果には表れないが、地域交流で福井地区の方々にはお世話になっている。ありがたいことなので引き続きお願いしたい。

- 今後も地域として学校との交流を続けさせていただきたい。
- 子どもたちの夢や希望、目標を実現させていくことが大事。支援学校も就労支援にしっかり取り組んでいただきたい。
- 「いじめ」の項目に関して
いじめについては、とらえ方が千差万別で、被害者側と加害者側ではとらえ方に大きなギャップがある。
教員は被害者の立場に立ってとらえていくことが大事である。
支援学校にいじめは無いということはなく、あり得ることと考えて対応してほしい。
アンケートの結果についても謙虚にとらえてもらいたいと思う。
- アンケートの回収率が上がってきている。良いことだと思う。
- 授業アンケートでは、保護者の記述をしっかり取り上げて、共有していて素晴らしい。
- 保護者からのご意見で、要望されている部分も多いと思うが、良いアイデアとして学校・教員はポジティブにとらえて活かしてもらいたい。
- 子どもたちが、自分が「社会から必要とされている」ということを体験を通して学べることはとても大切だと思う。これからも、学校以外の場も含め、そういう学びの機会を大切にしてほしい。

③ 諸連絡

第3回学校協議会については、今年度は1月末を予定。

以上